競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
https://hojo.keirin-autorace.or.jp/

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立牛堀中学校

公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

　平成２１年４月の学習指導要領から、中学校「保健体育　体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校３年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、ＪＯＣでは、中学校３年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校２年生を対象に、平成２３年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

　近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。ＪＯＣもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピアン）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピアンがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピアンが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

　平成２９年３月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和５年４月

公益財団法人　日本オリンピック委員会

■目　　的　：　オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピアン自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。

■事業名　：　JOCオリンピック教室

■主　　催　：　公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)

■後　　援　：　スポーツ庁

■協　　力　：　公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会

■対　　象　：　中学2年生

■講　　師　：　オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定

■期　　間　：　2023年4月～2024年3月　※原則、平日開催

■実施校数　：　80校程度

■実施方法　：　クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目　運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。

2コマ目　座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。

1コマ目　運動の時間 / 50分

オリンピアンの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分) → 準備体操(10分) → 主運動(30分) → まとめ(5分)

自己紹介
学習内容の確認

準備体操

主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)

運動の時間のまとめ

2コマ目　座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピアンがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分) → オリンピックの価値を伝える(10分) → グループワーク(20分) → まとめ(10分)

学習内容の確認

写真・映像等を使用した自己紹介

オリンピアン自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える

個人またはグループワークで話し合った内容を発表

全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピアンによって変動する場合があります。

●時間割について
- 1クラスにつき、運動の時間＋座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- 1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- 原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- 1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- 同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オ リ ン ピ ア ン ： 佐藤 久佳 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期　　　　　日 ： 2023年6月6日（火）

■ク　　ラ　　ス ： 2年A組／運動の時間

〇自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操

•水泳／競泳競技で北京2008大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス:「一生懸命頑張る」、フレンドシップ:「仲間と協力する」、リスペクト:「相手のことを思いやる」と説明し、この3つを意識しながら運動の時間を過ごしてほしいと伝え、準備運動に移る。準備運動では、腕を大きく回しながらのスキップやサイドステップ、サイドクロスステップ、スパイダーウォークを実施。

〇主運動 等

•主運動は、「シュート競争」を実施(全4回)。バスケットボールのゴール下と少し離れた場所に色の異なるマーカーを置き、班毎に1人ずつドリブルし、どちらか選んだマーカー付近からシュートを1本打つ。シュートが成功したら、打った地点のマーカーを持ち自陣に戻る。ゴール下を1点、離れた場所を2点として集計し、班毎の合計点数を競う。途中作戦タイムを設け、各班の作戦内容を尋ねると、「シュート後にボールを素早く次の人に渡す」等の意見が挙がった。

運動の時間を振り返り、成績に関係なく、最後まで1点でも多く獲得しようと努力し、協力する姿は素晴らしかった。一生懸命頑張ることや周りの仲間と協力しながら、ルールを守って取り組むことが何事においても大切で、一生懸命取り組むために、目的や目標を持つことが重要であり、オリンピックバリューを忘れずに、これからの日常生活を送ってほしい。座学の時間では、自分の経験とオリンピックバリューについて紹介し、皆で一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■オ リ ン ピ ア ン ： 佐藤 久佳 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期　　　　　日 ： 2023年6月6日（火）

■ク　　ラ　　ス ： 2年A組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える

•競技映像を観ながら、北京2008大会で水泳／競泳競技の日本代表として出場し、メドレーリレーで銅メダルを獲得したと自己紹介。３歳から水泳を始め、オリンピック出場を目標としたのは高校3年生の頃で、寮生活に苦労した高校時代に良い仲間に恵まれ、水泳を継続して頑張ることができた。明確な目標を持ち、頑張ることは「エクセレンス」、仲間と協力し合うことは「フレンドシップ」、協力してくれる人やサポートしてくれた親への感謝、ライバルへの敬意は「リスペクト」に当てはまる。

○個人ワーク ～ グループワーク 等

発問：これからの生活で活かしていくオリンピックバリューについて考えてみよう。
発表：エクセレンス：「勉強や部活動を頑張る」「目標を立てて頑張る」「練習や勉強をさぼらない」 等
　　　フレンドシップ：「行事ごとに協力し合う」「人付き合いを大切にする」「プラスの声掛けをする」 等
　　　リスペクト：「礼儀を大切にする」「支えてくれる人に感謝する」「挨拶をする」「反則しない」 等

•座学の授業を振り返り、目標を明確にすることは、頑張るためにも大切で、頑張ることを続けていると、その姿を見て協力してくれたり、支えてくれる人が現れる。相手を敬う気持ちがないと協力してもらうことはできず、自分が努力している姿を見せることも必要であり、オリンピックバリューの3つの価値は、全てにつながっている。今の頑張りが、未来の自分をつくるので、周囲と比べることはせず、自分が頑張っているという事実を自信にして、努力を続けてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組

■記念品贈呈

・2年A組

■修了証贈呈